

チャーミングな笑顔で  
スポーツの世界を見聞中の

## 野中ともよさん

昭和29年生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業後米国のコロンビア大学に留学。フォトジャーナリズムを専攻。帰国後フリージャーナリストとして活躍。現在はNHKの「サンデースポーツスペシャル」にキャスターとして出演。



## その技術を駆使して何を語るか なぜ、何のためのの問いかけを

●「語学力がある、というのは英語がしゃべれる、という意味ですか？ だとしたらそれは違います」

まず日本語の力がなくては、である。それも美しい日本語という意味だけではない。美しさは要素としては30%、残りは言語としての日本語の特性をどこまで理解しつかんだ上で話すことができるか、である。

「たとえば、挨拶の言葉を考えてみます。『おはよう』と言うか、おはようございます。と言うか、それは相手を見て決めるでしょう。言ってみれば日本語というのは階級性の言語なんです。使い方をまちがえると、意思を伝える以前にコミュニケーションそのものがなり立たなくなる。日本語を磨く、というのはそういう約束ごとを踏まえた上でなおかつきちんと伝えるべきことを伝えられるということなんです」

言葉はそれだけ一人歩きしても何の意味もない。受ける相手がいてこそ初めて価値を持つものだ。コミュニケーションツール、あるいは自分自身を表現するメディアと称されるのもそのためである。日本語を使いこなすことは、まず最も基本的な道具を磨き上げることにも他ならない。外国語はあくまでもその次、である。

「板と板をきちんと打ちつけられないのに家を建てる人はいないでしょう。言葉も同じです。基本があつて次に目的が来る。どんな道具を選んでどう使うかは、目的によってみんな違うんです。ところが語学となるとそれがとたんに画一的になってしまふんですね。なぜ、何のためには置き去り。だから発音とか文法とかの技術ばかりが重視されるんです。その技術を駆使して何を語るか、の問いかけがないんですね」

どれほど優れた機能を備えていたとしても、メディアは伝達手段としての限界は越えられない。受け手の心を動かせるかどうかは、そこで何が語られるかによるのである。

撮影/萩原永命

とらばーゆ

別冊 1-23 1986  
200YEN

CAREER

10年後を考えた仕事選びの情報誌

# 仕事の中であなたの力が見えてくる

特集：女性の潜在能力へ——新しい提案



角田拓子さん



野中ともよさん



小柳麻里子さん



加藤黎子さん



三橋樹子さん



大橋照江さん

新しい角度から仕事内容を紹介した求人情報を掲載

能力を発揮している100人の女性登場

対談レポート「アメリカ・キャリアウーマン事情」

キャリアを高く売る転職ノウハウ集

残間里江子「女ビジネス戦士に捧げるバラード」